

INTERVIEW

35歳
だった

美容師からショービジネスの世界へ

俳優

キムジユン

「この華々しい世界を自分で作りたいという情熱があつてこそ成しえてきたことであり、それぞれの分野で土台があつたからこそ、コネクションを広げ、実力をつけ、俳優としても実を結ぶことができた」と言う。

ある時、『ラ・カージュー・オ・フォー』というブロードウェイのショーが西海岸公演を行い、そこでヘアスタイリングを担当することになった。

「これまでにやってきた最新のヘアではなく、物語に合わせて古い時代のヘアを作るといふ、特殊な技術を身につけました。この時、歌や踊り、演劇というショービジネスの華やかな世界に魅せられました」

美容師だつたことがきっかけでショービジネスの世界に興味を持ち、美容師だつたからこそ、この世界に居続けることができたのだと言ふ。その後もダンサー、俳優と活躍の場を広げるが、美容師という土台だけはいつも大事にしている。

ニューヨークでアルビン・エイリー・ダンススクールに入學してからは、昼はモダンダンスやバレエのレッスン、夜はブロードウェイの舞台裏でヘア担当という二重生活が続いた。ほとんど休む暇もなかった。

「1980年代半ば、タイムズスクエア周辺も失業者があふれる危険な時代。混沌の中で生まれるショーだからか、面白かつた」

生活のために続けていた舞台裏でのヘアスタイリングの仕事は、第一線で活躍する演出家や俳優とのコネクション作りにはもってこいだつた。彼らの紹介で、スピーチやダンス、演技の優秀な先生たちと出会つた。俳優にとつて、良い先生に学ぶことは成長のために必要な肥やしなのだ。

一時は、バレエダンサーとしての世界へも傾き、ミシガンやバージニアで『王様と私』にも出演した。しかし、年齢的に限界を感じていたのが35歳の時だ。そのころ呼吸もびつたり合う演技の先生に出会い、演劇の世界へと移行する。

ブロードウェイが活気を取り戻した90年代前半には、ロックオペラ『トミー』のヘアを担当し、美容師としての技術も更に認められていった。『ショウ・ボート』『タイタニック』と、人気ミュージカルのヘアの仕事は後を

絶たなかつた。こうして、ヘアスタイリストとして第一線にいながら、演技のレッスンやオーディションと努力を続けた。

ある日、とうとう歌舞伎・弁天小僧の主役の座を勝ち取つた。ニューヨークで初めて歌舞伎を英語で演じ、俳優としてブレイク。ダンスのバックグラウンドも功を奏し、『フィジカル』に勤める俳優とメディアから絶賛された。本家、歌舞伎役者の中村勘三郎氏に招かれ日本に行き、平成中村座のニューヨーク公演実現にも一役かつたのである。

今も俳優として活動を続けながら、舞台演出やプロデュース、ヘアの仕事も手がけている。「自分がこれまで学んできた自己表現の方法を伝えていきたい」と、俳優育成や、一般人へのパフォーマンス指導も行う。ショービジネスへの情熱は、これから更に燃え上がる。

■ 敬称略(弘恵ペイリー)



きむ・じゆん

福岡県出身。1986年からニューヨークのブロードウェイで美容師として活躍。ニューヨーク、ベルリン、シンガポールなどで俳優としても名を上げる。パリのフィリップ・ゴリエ、ロンドンのコンプリンテ、ニューヨークではテレサ・ハイドンなど歴史的な劇団、指導者から演劇の神髄を学ぶ。近年は演出家として活動。日本の演劇人との交流のため、2007年からシアターワークショプを東京、福岡、ニューヨークで開催。現在、奮闘時次郎のニューヨーク公演に向けて準備中。http://ameblo.jp/kurotama-ny

1995 35歳だった年のできごと

- 阪神・淡路大震災が発生
- 新食糧法が施行され、米の販売が原則自由化
- オクラホマシティ連邦政府ビル爆破事件
- マイクロソフトがWindows95を発売